

露光量違いにより重複撮影

国民合唱 富士山の賦

八 歌 詞 有 神 詞
長 谷 川 良 夫 作 曲

調子 四拍子 (J=約80)

山 頂 雲 霧 立 ち 立 つ 富 士 の 高 峯
比 ば べ き 山 は 世 に な し
た と べ き 物 は 世 に な し
た と 仰 げ 皇 國 の 姿
三、 神 さ び て そ そ り 立 つ 富 士 の 高 峯
い に し へ も か く や り け じ
ゆ く す も か く ぞ あ る べ き
永 久 に 皇 國 の 輝

富士山の賦

一、 大 空 に 聳 え 立 つ 富 士 の 高 峯
横 に 雲 の ある 好 し
山 の 尾 に 雲 の ある 好 し
何 時 見 て も 氣 高 き 眺 望

二、 お そ か に そ そ り 立 つ 富 士 の 高 峯
比 ば べ き 山 は 世 に な し
た と べ き 物 は 世 に な し
た と 仰 げ 皇 國 の 姿

三、 神 さ び て そ そ り 立 つ 富 士 の 高 峯
い に し へ も か く や り け じ
ゆ く す も か く ぞ あ る べ き
永 久 に 皇 國 の 輝

週報

第三三三號
三月三日

昭和十八年度豫算の概要

大蔵省：二
二百三十億貯蓄もあと二息
大蔵省：四

日露戦争と大東亞戦争

陸軍省報道部：七
撃ちてししまむ

大東亞戦争各方面の戦況

陸軍省報道部：三
「頼母しい戦争生活例」當選発表：六

週日誌

三月十七日(金) 新年後
▽海軍軍政の方針と現状を
海軍當局発表
三月十八日(土)
▽海軍航空隊ならびに地
上部隊のソロン方面(六
五機隊)・西南太平洋方面
(九機隊)・アリューシャン
方面(七機隊)の戦果を大
本營発表
▽出版事業令公布、實施
▽ハリコフ撤退を獨軍司令
部発表
三月十九日(日)
▽ソロン方面に來攻(昨午
二時二十分)の米機部隊を
撃退した伊藤隊少佐指揮
の第〇〇航空隊飛行機隊
坂井中尉指揮の〇〇海軍
航空隊飛行機、松江山五郎
兵曹長指揮の水偵察機に
對し感状が授與され、上閣
に達した旨、海軍省公表
三月二十日(月)
▽海軍航空隊のサンク
リストバル島方面の戦果

三月十七日(金) 二月と大東亞戦争一
覽表を大木營発表
▽獨軍、チェニシアで米英
軍を潰滅
三月二十一日(日)
▽沙市東南の揚子江畔にお
いて敵四ヶ師を包圍、潰滅
今七、八日の旨、中支軍發
表
三月二十二日(月)
▽帝國陸海軍部隊、佛國政
府の諒解の下に廣州總佛
國租借地に進駐(二十一日の
旨)、大本營発表
三月二十三(火)
▽海軍航空隊のエスピリ
ツ・セント島(ミナミ)のフ
ライズ機(夜襲)二十二日、四機一
機を失い、夜襲上、那事機を撃破
を大木營発表
▽在支治外法權を撤廢し、
四租界(上海、天津、漢口、青島)
を返還の旨、佛政府聲明
▽東部戦線一年八ヶ月の戦
果(敵死傷三萬、俘虜五萬四
千、砲四萬八千、獨軍三方四十
を獨軍司令部発表

昭和十八年度豫算の概要

大 藏 省

豫算の内容

大東亞戦争下における二度目の豫算である昭和十八年度豫算は、戦争遂行のための直接の経費を計上した臨時軍事費豫算追加と共に、休會明けの第八十一回帝國議會に提出され、臨時軍事費豫算追加は既に貴、衆兩院の協賛を経て成立し、一般會計及び各特別會計の本豫算及び追加豫算も本稿が刊行される頃には成立を見ることが思はれるが、その編成の経過並びにその内容の概要を説明することしよう。

毎年本豫算の編成に當つては、先づその方針を閣議で決定するのが例であるが、昭和十八年度本豫算についても、昨年七月十七日の閣議で、経費の要求に際しては、すべて戦時財政の本質に精へ、不要不急のものは徹底的に抑へ、重點主義と効率主義の観点から、厳正な態度をもつてその編成に當ることと決し、爾來、各省いづれも、右の方針に則つて、豫算の編成に當つたのである。

次に、一般會計及び特別會計の昭和十八年度の豫算並びに臨時軍事費豫算追加について、その概要を逐次紹介しよう。

昭和十八年度一般會計豫算は、本豫算、追加第一號及び追加第二號に區分

されるが、便宜上これを一括して別表①にその歳入歳出を掲げよう

この別表①でも明らかな通り、昭和十八年度一般會計の豫算額は歳入歳出ともに百三十二億七千五百餘万円であつて、これを前年度豫算額（今議會に提出の追加豫算をも含む）

歳入 八、九八四、四〇〇
歳出 九、三二一、七〇〇

と比較すれば

歳入において 四、二九〇、〇〇〇
歳出において 三、九五七、〇〇〇

の増加を示してゐる。次に歳入、歳出の内容に入らう。まづ、歳入豫算の内譯と、前年度との比較を掲げれば別表②の通りである。

別表②で明らかな通り、昭和十八年度一般會計の歳入豫算の内譯は租税その他普通歳入

九、七三三、八〇〇

前年度剰餘金繰入 三三〇、〇〇〇
公債金 三、二〇六、〇〇〇

まづ、普通歳入の大宗である租税歳入は經常部及び臨時部を合せて

七、五九〇、〇〇〇

であつて、その普通歳入中に占める割合

別表① 昭和十八年度歳入歳出豫算及び對前年度豫算額比較表

區分	昭和十八年度豫算額		前年度豫算額		増△減
	第一號	第二號	昭和十八年度	前年度	
歳入	八、九八四、四〇〇	九、三二一、七〇〇	八、九八四、四〇〇	九、三二一、七〇〇	〇
歳出	九、三二一、七〇〇	八、九八四、四〇〇	九、三二一、七〇〇	八、九八四、四〇〇	〇
歳入の内訳					
臨時部	一、九八〇、〇〇〇	一、九八〇、〇〇〇	一、九八〇、〇〇〇	一、九八〇、〇〇〇	〇
普通部	五、六一〇、〇〇〇	五、六一〇、〇〇〇	五、六一〇、〇〇〇	五、六一〇、〇〇〇	〇
公債	三、二〇六、〇〇〇	三、二〇六、〇〇〇	三、二〇六、〇〇〇	三、二〇六、〇〇〇	〇
前年度剰餘金繰入	三三〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	〇
借入金	〇	〇	〇	〇	〇
計	八、九八四、四〇〇	九、三二一、七〇〇	八、九八四、四〇〇	九、三二一、七〇〇	〇
歳出の内訳					
臨時部	一、九八〇、〇〇〇	一、九八〇、〇〇〇	一、九八〇、〇〇〇	一、九八〇、〇〇〇	〇
普通部	七、三一〇、〇〇〇	七、三一〇、〇〇〇	七、三一〇、〇〇〇	七、三一〇、〇〇〇	〇
計	九、三二一、七〇〇	八、九八四、四〇〇	九、三二一、七〇〇	八、九八四、四〇〇	〇

別表② 昭和十八年度歳入豫算額及び対前年度豫算額比較表

科目別	昭和十八年度追加豫算額		合計昭和十八年度豫算額	前年度増、減
	第一號	第二號		
經常部	九、〇七〇千圓	一、〇〇七千圓	一〇、〇七七千圓	一、〇〇七千圓
臨時部	六、六六六千圓	一、〇〇七千圓	七、六七三千圓	一、〇〇七千圓
租 税	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
官業及官有財産収入	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
印紙収入	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
官業及官有財産収入	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
通信事業特別會計納付金	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
日本銀行納付金	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
雑 収 入	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
教育改善及農村振興基金特別會計より受入	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
臨時部	六、六六六千圓	一、〇〇七千圓	七、六七三千圓	一、〇〇七千圓
租 税	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
官有物拂下代	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
公共團體工事費	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
納付金	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
公共團體工事費	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
分擔金	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
學術研究奨励金	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
特別會計より受入	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
補償収入	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
雑 収 入	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓
特別會計残金受入	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓

本議會に提出の間接税を中心とする新増税等に基づく分
一、〇〇七千圓
自然増収等に属する分 六六六千圓
であつて、右のうち本議會提出に係る税制改正に基づく分は追加豫算第一號に計上し、その増収額に相當する金額は、舉げてこれを臨時軍事費特別會計に繰入れることにした。
租税以外の普通歳入中、前年度豫算に比較して増減の顯著なものは、本豫算においては、
雑収入におつて 一〇百圓
特別會計残金受入におつて 一五九百圓
を増加し、また
官業及び官有財産収入において 二七百圓
特別會計よりの受入において 三〇百圓

公債	前年度	追加	合計
借入金	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓
前年度剰餘金	一、〇〇〇千圓	一、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓
合計	二、〇〇〇千圓	二、〇〇〇千圓	四、〇〇〇千圓

の増加となつてゐるが、右は前述の豫算編成方針にも掲げてあるやうに、大東亞戦争完遂に即應する各般の施設中緊要差措き難いものが多かつたことにほかならないのである。
いま、本豫算と追加豫算とを通じて、昭和十八年度豫算の編成上、新規経費として計上したもののうち、主なものを挙げれば、
一、鐵、石炭その他重要な物資の生産増強並びに低物價維持に關する経費として、林産物供給確保等に關する経費、帝國鑛業開發株式會社損失補償金、石炭増産対策等に要する経費、鉄鐵買取價格補償金、鐵鋼原料の補償に關する経費その他 六九九百圓
二、中小企業の整備その他に關する経費として、石炭鑛業整備に要する経費、國民更生金庫損失補償金その他 一〇二百万圓
三、食糧対策に關する経費として、農地

を減少し、追加豫算においては、
專賣局益金において 四四六百万圓
燃料局益金において 八九
を増加してゐる等であつて、右のうち、專賣局益金の増加は先頃實施した煙草値上に基づくもので、本増収額に相當する金額も、また舉げて臨時軍事費特別會計に繰入れることとしたのである。
次に、前年度剰餘金繰入は昭和十六年度決算上の總剰餘金四億六千七百餘万円の内から、歳出繰越額の財源として必要な金額を控除した差引の純剰餘金三億三千餘万円を計上したものである。
また公債収入の内訳は

であつて、前年度豫算に比較して

別表⑤ 昭和十七年度歳出豫算額所管別内譯及び対前年度豫算額比較表

所管別	昭和十八年度		昭和十七年度		増減
	第一號	第二號	第一號	第二號	
總務部	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
外務省	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
内務省	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
大藏省	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
陸軍省	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
海軍省	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
司法省	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
文部省	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
農林省	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
商工省	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
厚生省	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
大東亞省	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
臨時部	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
計	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0

對策に關する經費 肥料等對策に關する經費、食糧生産増進に關する經費、米穀生産獎勵に關する經費、その他 三六三萬圓

四、結核撲滅その他國民保健に關する經費として、國民健康保險に關する經費の増加、國民體力法施行に關する經費、その他 七八萬圓

五、國民生活及び人口對策に關する經費として、生活必需品の供給調整に關する經費、乳幼児體力向上指導に關する經費、妊産婦保健指導に關する經費、市町村職員臨時家族手当補助に關する經費、その他 一三九萬圓

六、軍人援護に關する經費として、傷病軍人保護に關する經費、軍事扶助費の増加、傷病軍人療養所その他新營に關する經費、その他 一五二萬圓

七、文教の刷新に關する經費として、師範學校移管並びに制度改善に關する經費、在學年限短縮に關する經費、國民學校及び青年學校教員の待遇改善等に關する經費、その他

所管別	昭和十八年度	昭和十七年度	増減
總務部	1,000,000	1,000,000	0
外務省	1,000,000	1,000,000	0
内務省	1,000,000	1,000,000	0
大藏省	1,000,000	1,000,000	0
陸軍省	1,000,000	1,000,000	0
海軍省	1,000,000	1,000,000	0
司法省	1,000,000	1,000,000	0
文部省	1,000,000	1,000,000	0
農林省	1,000,000	1,000,000	0
商工省	1,000,000	1,000,000	0
厚生省	1,000,000	1,000,000	0
大東亞省	1,000,000	1,000,000	0
臨時部	1,000,000	1,000,000	0
計	1,000,000	1,000,000	0

に關する經費その他 四五百萬圓

等であり、また本豫算及び追加豫算を通じて特に増加の多額な事項としては臨時軍事費特別會計へ繰入 四一三九萬圓、國庫準備金の増加 一、五五七萬圓、為替交易調整特別會計へ繰入 四一〇萬圓、國債整理基金特別會計へ繰入の増加 二四九萬圓、等であつて、時局下つづれも緊要措置を難い經費を計上したものである。右の臨時軍事費特別會計への繰入金額は一般會計においては本豫算計上の分 二、七八五萬圓、追加豫算計上の分 一、四五四萬圓、計 四、三三九萬圓であるが、これに後述の特別會計の分 五七九萬圓を加へると 四、八一八萬圓

八、科學及び技術振興に關する經費として、科學研究費の増加、科學技術の向上刷新に關する經費、航空機搭乗員、時養成に關する經費その他 六三三萬圓

九、防空に關する經費として、防空設備資料整備補助に關する經費、防空實施



となり、前年度に比較して

一、六八〇百万

の増加となつてゐる。

また國庫準備金については、豫算超

過または豫算外支出の増加に備へるた

めに、本豫算においては既定費と合せ

て前年度同様

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金

第二豫備金

昭十八年度主要特別會計豫算額及び對前年度豫算比較表

昭十八年度豫算における特別會計の数は、年度區分のない臨時軍事費および年度に特例を設けた特殊財産資金をも加へ四十九であつて、そのうち今回新たに設置されたものは營繕用品資金、爲替交易調整、特殊財産資金の三特別會計であるが、他方教育基金、教育改善及農村振興基金、對支文化事業、それから職員健康保険の四特別會計は昭和十七年度限り廢止された。各特別會計豫算についても、一般會計の編成方針に準じ、専ら戦力増強のため、眞に緊急缺くべからざる経費を計上したことはいふまでもない。

昭十八年度豫算における特別會計の数は、年度區分のない臨時軍事費および年度に特例を設けた特殊財産資金をも加へ四十九であつて、そのうち今回新たに設置されたものは營繕用品資金、爲替交易調整、特殊財産資金の三特別會計であるが、他方教育基金、教育改善及農村振興基金、對支文化事業、それから職員健康保険の四特別會計は昭和十七年度限り廢止された。各特別會計豫算についても、一般會計の編成方針に準じ、専ら戦力増強のため、眞に緊急缺くべからざる経費を計上したことはいふまでもない。

Table with columns: 區分, 本豫算額, 追加豫算額, 合計, 前年度, 増減. Rows include 朝鮮總督府, 臺灣總督府, 樺太廳, 關東局, 南洋, 通信事業, 帝國鐵道, 政府出資, 政府出入.

をそれ／＼講じた次第である。また帝國鐵道及び通信事業の特別會計においても歳入歳出ともに概ね前年度に比し増加を示してゐるが、これは戦時陸運の強化並びに通信施設の整備等のため、眞に緊要なる経費の増加によるのである。

年度の公債發行豫定額は

朝鮮總督府	二五七〇
臺灣總督府	二〇
帝國鐵道	二七〇
通信事業	九五
政府出資	四〇七
計	一、〇五〇

であつて、これを前年度に比較すると増加となつてゐる。

最後に、今回初めて新設される特別會計について、簡単に説明を加へれば、製糖用品資金特別會計は、大蔵省管轄の管財局で司掌する製糖事業の主營に必要な製糖用品を購入し、これを貯蔵加工して、事業の回滑な遂行を圖るため、その資本として新たに製糖用品資金を設けることとしたものである。

爲替交易調整特別會計は、我が國の綜合國防經濟力の確立發展を基調とする

る交易計畫を樹立し、これが實行を確保することが、戦争完遂上最も緊要である。

また、特殊財産資金は、大東亞戦争地域において没收し、または管理下に收めた敵産が相當多額に上る現狀において、この運営を圖り、以て戦力の増強に資することが時局下喫緊の要務であるため、その統一の運営を圖るために特別の資金を設け、その歳入歳出は一般會計と區分經理することとしたのであつて、今次提出に係る豫算は、今

臨時軍事費

最後に戦争遂行の直接の経費である臨時軍事費特別會計豫算について述べよう。

臨時軍事費特別會計については年度の區分がなく、昭和十二年第七十二回帝國議會で成立して以來、前々同第七十九回帝國議會まで毎回追加を重ね來り、累計

四六、九三五〇〇〇
に達してゐるが、今回さらにその追加として歳入歳出共に
二七、〇〇〇〇〇
を計上したのである。従つてこれを既

に成立してゐる臨時軍事費及び昭和十六年十一月に豫算超過支出をした金額と通計すれば、その總額は

七四、一二八〇〇
となる次第である。
先づ、歳出の内訳は
豫備費 六、〇〇〇〇〇
臨時軍事費 二一、〇〇〇

であつて、大東亞戦争完遂のためにこの際、増加を必要とする戦費を計上したものである。

従來、總豫算に計上されてゐた陸海軍兩省の所管に屬する経費は、既に述べた通り、大戦下軍事の現狀に顧み、原則として本省費以外の経費は擧げて臨時軍事費支辨としたのであつて、作戦部隊艦船等に要する経費その他大東亞戦争に關する陸海軍の諸施設に要する経費は全てこゝに計上されてゐるのである。

次に歳入について述べれば、歳入

財源の大部分は公債及び借入金によることとなつてゐるが、その額は

公債金 一七、一六三〇〇
借入金 三、三〇〇

であり、右の借入金は、今後現地において支出される軍事費の所要資金の一部を南方開發金庫等から借入れ調辨することにしたものである。

公債及び借入金以外の歳入は六、五三六〇〇であるが、その内訳は

一般會計よりの繰入 四、三三六〇〇

各特別會計よりの繰入 五七九〇〇

雑収入 一、六〇〇

その他 一九

であつて、一般會計及び各特別會計よりの繰入金は、従前より今期議會提出までの増新税、煙草及びアルコール値上による専賣局益金の増収額中の相當額その他を繰入れんとするものである。

今度の豫算と國民貯蓄の重要性

以上、一般會計および臨時軍事費をはじめ、各特別會計について、第八十回帝國議會に提出された豫算の大要を述べたが、最後にこれを總括して

昭和十八年度財政の規模を述べれば、一般會計豫算は本豫算および追加豫算を併せ前述の通り
一三、二七五〇〇

に上り、これに今回提出の臨時軍事費
豫算追加額二百七十億圓を加へると、
實に四百二億七千五百萬圓に上るので
ある。しかしてこの金額から一般會計

より臨時軍事費特別會計への繰入額
を控除しても、なほ三百六十億三千五
百萬圓となり、前年度における當該相
當金額に比し百十三億四千百萬圓の増
加を示してゐるのである。

また、歳入財源である公債につき、
昭和十八年度における發行豫定額をみ
ても

一般會計において
三、二〇六百萬圓
臨時軍事費に屬する分
一七、一六三萬圓

その他の特別會計に屬する分
一、〇五〇萬圓
計 二、四二〇萬圓

に上り、これを前年度における公債發

行豫定額

一六、三九六萬圓
と比較すれば
五、〇二四萬圓

の増加となつてゐるのである。
このやうな豫算が、固より我が國の豫
算として前古未會有のものであること
はいふまでもない。

額みれば、昭和十三年度豫算は支那
事變の勃發のため、平時豫算の一躍三
倍となつたのであつたが、今回の豫算
はそのまた五倍にも上つてゐるのであ
つて、平時の豫算に比すれば十數倍に
達してゐるのである。財政も正に決戦
態勢の相狀を如實に示すに至つたとい
ふべきである。

従つて又、右のやうな巨額の歳出に
伴つて、民間に放出されるべき資金を
順調に回収して行く必要は、戦勝の要
件である戦費調達の上からしても、將
また國民經濟の健全な運行を確保する

上からしても、ますます加重されるべ
きは當然であつて、銃後の全國民が各
各その分に應じた租稅負擔に任ずるほ
か、昨年中に幾層倍した努力を以つて
その職域に精進すると共に、難きを忍
んで各自の消費生活を切詰め、能ふ限
り多額の貯蓄を勵行することが、蓋し
時局下最も肝要な次第なのである。

即ち、本年度のわが國民所得は大約
五百億と見積られてゐるのであるが、
その所得は
租稅その他これと同性質の國民
負擔に
約 一〇、〇〇〇萬圓
國債に 約 二一、〇〇〇萬圓
生産力擴充資金その他の國家
的資金に
約 六、〇〇〇萬圓
以上三者の計 三七、〇〇〇萬圓
に配分されねばならず、國民の消費資
金に充てられるものは、差引百三十億

圓にとゞまることになるのである。

しかして右の三百七十億圓に上る國
家的資金のうち、租稅及びこれと同様
の性質を有する國民負擔百億圓を控除
した二百七十億圓は、畢竟國民貯蓄の
増強によつてはじめて支辨できるもの
であつて、昭和十八年度の國民貯蓄増
加も亦この金額を目標額としなければ
ならないのである。

五百億圓の國民所得中、三百七十億
圓が國家的資金、私生活に残されるも
のは差引百三十億圓に過ぎず、換言す
れば、全國民所得中七割五分見當の金
額が國家的目的、即ち戦争遂遂のために、
集中されねばならないのである。

國民消費百三十億圓といへば、昭和
十七年度の百五十億圓に比して二十億
圓、すなはち約一割五分の減少に過ぎ
ないといつて、さしたることもないや
うに考へる向もあらうが、しかしなが
ら、國民の中には既に相當に生活を切

詰めてゐる者も相當の數に上り、國民
の全體が最低限度一割五分づゝ各自の
消費を切詰めるといふことは、蓋し容
易な業ではないと考へられるのであ
る。従つて、やゝ餘裕のある階層は二
割も三割も、更にその大なるものに
つては、四割も五割も私生活を緊縮せ
ねばならないのであつて、國民の一人
一人が決戦の意氣をもつて、全力を國
民貯蓄の増強に集中することが喫緊
の要務なのである。

さて、國民所得の生ずる源泉が生産に
あることは、いまさらいふまでもないと
ころである。決戦財政の遺憾なき運行
を期するには、従つてまづ、第一に戦時
生産の増強に俟たねばならぬのである
が、また同時にかくして生じた資金を、
舉げて國家目的に集中するために國
民各自がその消費を極力切詰めねばな
らない。こゝにまた生活の決戦體制化
が絶対に必要となつて來るのである。

決戦生産と決戦生活

この兩者によ
つて得られる決戦貯蓄こそは決戦財政
運行の鍵なのである。

政府が決戦的決意をもつて、財政各
般の施策に萬遺憾なきを期してゐるこ
とは、勿論であるが、一億國民におい
ても、その至誠と熱情とによつて、決
戦生産と決戦生活の完璧を期し、決戦
財政の完全なる運行に寄與せられるこ
とを信じて疑はないのである。

大東亞戦争とわれら

文部省教務局編 定價二〇錢送料四錢
本書は大東亞戦争の深遠なる意義を解
明し、征戰遂遂に進化する國民生活上
の實踐の心構へを示し、戦場、家庭
に御奉公の誠を具現して行くことが出
来るやう巻頭に官職の詔書を講揚し、
大東亞戦争はとうして起つたか、戦争
に勝ち抜くにはどうすればよいかにつ
いて記述し、大東亞地圖及世界全圖を
添へたものである。
内閣印刷局發行

二百三十億貯蓄もあと一息

一體、今年の二百三十億圓の目標に對して、現在までにどれだけ出来てゐるかといひますと、昨年の十二月末までの九ヶ月間に、割合にして七割八分、金額にして百八十億圓の貯蓄が出来ました。まづ、相當の成績と申してよいのであります。特に昨年十二月中には一ヶ月で四十億圓の貯蓄が出来上りました。あの宣戰の御詔勅を拜しました一昨年十二月中には、約三十億圓の貯蓄が出来て、困難を突破せんとする國民の決意を示す未曾有の成績であるといつて驚かれたものでしたが、それを

さらに十億圓も上廻つたことは、大東亞戰爭一周年を迎へて、國民がどんなに軒昂たる意氣に燃えて、米英聯軍の決意を新たにしたかを如實に物語るものといへませう。國民士氣が昂揚すれば貯蓄はこのやうに増加しますが、國民精神が弛緩すれば貯蓄の成績も下ることは、本年度第二四半期（昨年の七月、八月、九月）の貯蓄成績を見てもよく分るのであります。その第二四半期の貯蓄成績は約四十億圓に過ぎず、第一四半期（昨年の四月、五月、六月）の貯蓄成績に對して、

一舉に四割餘の減少でした。同じ三ヶ月間にこのやうな違ひがあつたといふことには、政府の撒布資金の多少等の經濟的原因もあつたでせうが、それにもまして、緒戦の戦果に陶醉して、國民が一昨年十二月八日のあの感激と緊張を徐々に弛めて来た結果であることは、一方に遊興飲食税や物品税等の稅收入が、反對に月々増加して来たことに徴しても明瞭です。

そこで大藏大臣は國民に警告を發し、一大奮起を促すと共に、二百三十億貯蓄完遂特別計畫が樹てられ、國民はこれに呼應して非常な努力を傾けられたのであります。その努力の結果が第三四半期（昨年の十月、十一月、十二月）の成績の上に實を結んで、約七十億圓の貯蓄が出来たのであります。十二月中の貯蓄がとりわけ目覚めかつたことは前に述べましたが、このやうにみえてくると、貯蓄が出来るのも

出来ないのも畢竟、國民の心構への如何にあることがよく分るのであります。今日までの貯蓄成績を省みて、もう一つ日につくことは、郵便貯金、貯蓄銀行預金、信用組合貯金等の大衆の預貯金の増加率が顯著であることです。これは戦費の支拂に伴ふ政府の撒布資金が、國民の隅々にまでよく行き届つてゐる證據でもありますが、同時に大衆が國策に應じてよく貯蓄を勵行してをられることを示すものです。これに反し一部の富有者、有力者等に、國策に副はない者、その力に應じた貯蓄を行はなない者、國債債券の隣保消化に協力しない者があるといはれることは、眞に歎かほしいと申さねばなりません。一億一心、貯蓄の大進軍を起してゐるこの際、これら非協力者の絶無を期することは最も重要なことのひとつです。

さて、このやうにして、七割八分、百八十億圓の貯蓄が出来たのですから、本年度の目標額である二百三十億圓の貯蓄は、この第四四半期（本年一月、二月、三月）に、あと割合にして二割二分、金額にして五十億圓の貯蓄で、めでたく達成できることになりませう。私共は大きな數字に慣れましたから、これまでの調子で行けば、それ位はなんと出来るであらうと思はれる方があるかも知れませんが、それは決して生易しいことではありません。元來一月、二月、三月といふ月は、季節的にみても冬籠りの月で、十二月までの貯金を済ませながら、暮して行く人の多い時節で、これまでの例で、第四四半期は第三四半期に比較して、成績がグッと落ちるのが毎年の例なのです。ですから、こゝで氣持を弛めましたなら、この五十億圓は到底達成できないと思はなくてはなりません。

二百三十億貯蓄必成特別計畫はこのやうな事情に對應して、國民の覺悟と本年度掉尾の努力を要請するために樹てられた計畫にほかならないのです。昨年の十二月に、二百三十億貯蓄完遂特別計畫に呼應して、第二四半期の貯蓄の類勢を第三四半期において見事に挽回したやうに、この計畫も必ずや國民の共鳴を得て、所期の目的を達成するであらうと思はれます。それならば、私共はこれに呼應して、五十億圓の貯蓄を達成するために、どんなことをしたらよいか。

それは、もう申すまでもあります。まず、敵米英を一舉に撃滅せずんばやまない決意を、實踐に移して、勤勞を強化し、消費節約を強行することです。これを徹底的に押しすすめて得た餘剰は、これをあけて貯蓄にする、これ以



外に途はないのです。

一人々々としてこれを果すだけなく、互ひに相勵まし、隣保相率ゐて、國民は一團の火の玉となつてこれに邁進するのではありません。勤勞、強化的には内職、副業の如きも家庭内でもつと／＼行はれて、かかるべきです。それは最近ことに各所に行はれるやうになつて、非常な効果も擧げてゐますが、それがもつと普及されて全國の各家庭で行はれるやうになりましたら、どんなに生産と貯蓄の増強に貢獻するかわりません。消費節約のためには、これまでのお茶やお湯を氷に代へる覺悟が必要です。生活費を切下げて、しかるのち貯蓄するといふのでなく、與へられた目標額を先づ貯蓄にして、剩つたものを以て生活するといふ生活態度でなければなりません。勝つためです。前線の勇士の心を鉄柱の私共の心とするといふことを、お

題目や標語にとどめないならば、二百三十億貯蓄何んのそのです。東條内閣總理大臣は、この第八十一議會の最初に、次ぎのやうに述べられました。

「米英はその工業力を唯一の頼みとして戦力の回復増進に狂奔し、既に反攻の舉に出でゐる。これはわれ／＼として、もちろん油断すべきではないが、またわれ／＼の最も乗すべきところである。眞に本年こそは、過去一年間に獲得した戦果を更に擴充し、我が必勝の條件を彌が上にも確立すべき決戦期とも稱すべき年である。」

なんと氣魄に満ちた雄渾な宣言ではありませんか。ガダルカナル島、ニューギニアのブナにおける皇軍將兵の苦闘の經過を、私共は熱涙を以て聞き、萬斛の恨みを呑んで斃られた一万六千七百三十四柱の英雄の仇は、必ずこれを討つこと

を誓つたのですが、大東亞戦争が今や如何なる段階に到達したかは明らかです。二百三十億貯蓄必成特別計畫は、このやうな事態に即應して打ち切られたのです。そしてこれこそ、國民が決戦の決意を中外に示すべきこの上ない機會なのです。

(大藏省)

寫眞週報

三月三日發行 定價十錢

- 空を護らう
- 1 大型爆撃機はどうして消すか
- 2 防空指導者の養成
- 3 非常時炊出し訓練
- 決戦下の雜察は隣組で
- 戦場通信「フリビンの敵前上陸から」
- 比島人俘虜は懐しの故郷に歸る
- 比島における椰子加工業の殷盛ぶり
- 皇都清掃運動

日露戦争と大東亞戦争

陸軍省報道部

まへがき

皇國が興亡の岐路に立ち、國運を賭して戦つた日露戦役も、今は早や昔物語となり、陸軍記念日も今年で第三十八回を算へるに至つた。日露戦争の様相は、今日の總力戦の見地からみれば、至極簡單なものであつたと考へられるが、しかし、當時のわが國力、戦力を以てして、強大なロシアを敵とし、よくこれを打ち敗つた所以のものを検討してみると、われ／＼が今日戦ひつゝある大東亞戦争に活用すべき、幾多の貴重、な教訓を發見する。以下、

日露戦争の原因と目的

日露戦争は、今さら喋々するまでもなく、帝政ロシアの東洋侵略政策に對し、東洋平和とその獨立保全のために帝國が敢然起ち上つた戦ひである。一は全くの侵略征服慾から出た無名の師であり、一はこれに對する正當の防衛戦であり、生存權擁護のための戦ひであつた。戦争目的の正邪善惡がいづれにあるかは、當時においても、また今日においても、極めて明瞭なことであ

つて、この點からも勝敗の歸決は自ら明らかであつたといへる。

今度の大東亞戦争についてこれを當てはめてみると、戦争にいたつた経緯や戦争目的の關係が、日露戦役と全く軌を一にしてゐるのに驚かざるを得ない。即ち日露戦争における滿洲問題は、即ち大東亞戦争における支那問題に相當する。支那問題は、米國にとつては東洋侵略政策の一つの道具に過ぎず、全く征服慾を満足せしめんとする餘事には過ぎない。しかるにこれは、我が國にとつては死活の問題であつて、しかも支那事變五年の努力と犠牲と

を、米國の容喙によつて無爲にするこ
とは、帝國の面目にもかゝる問題で
あつて、到底容認することは出来な
い。苟くも三千年の光輝ある皇國民と
して、何の顔容あつて父老に見えんや
である。

この間の経緯については、宣戰の詔
書を拜讀すれば極めて明らかに御示し
あらせられ、更に詔書の末尾において
「帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事
既ニ此ニ至ル帝國ヘ今ヤ自存自衛ノ爲
斷然起ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外
ナキナリ」

と仰せられ、本戰争が日露戰争と同様
我が國の生存權の擁護のための戦ひで
あることを御示しあらせられてゐる。

しかも、日露戰争も對米英戰争も、
ともに外交折衝によつて最後まで平
和的打開方策を見出すべく、あらゆる
手段が盡され、これがために幾度か御
前會議も開かれた。當時の内閣總理大

隈は陸公であつたが、公を始め輔弼の
重臣が如何に苦慮したかは想像に餘り
あるものであつた。

今次對米英戰争の始まる前約一ケ
年、日米交渉によつて日米國交の調整
を試みられたのも、全く同一の性格を
有するものであつた。野村、來栖兩大
使が最後まで平和的解決に努力したこ
とは、敵國民も齊しく認めるところで
あつて、現に交渉まさに危殆に瀕せん
とした當時、ヘースト系の新聞などの
如きは、日本の言ひ分の正當なことを
認め、米國政府當事者を戒めてゐた程
で、そのためにルーズヴェルトの對日
宣戰決議案には反對者も出た位であつ
た。即ち、今次戰争における我が戰争
目的が正當であることは、日露戰争と
全く同一であるわけである。

さてこの方策は、日露戰争や對米英
戰争になつて初めてかういふ方策が樹
てられたものではない。これは帝國の
以上は、軍の兵備そのものが露軍に
比べて貧弱そのものであつたことの一
例に過ぎないが、當時のわが財力も、
これまた同様に貧弱を極めてゐた。

し我が兵力は、後方を加へ動員總兵力
百十方を出てゐなかつた。それに軍の
編制、裝備の一つ／＼について比較檢
討してみたならば、たしかに露軍の方
が優れてゐた。

例へば當時、露軍は砲身後座式の野
山砲を以て裝備されてゐたのに、我が
方は日清戰後の依然たる砲身固定式
の砲で、一發射つ度に車輪がガラ／＼と
後退するやうな時代遅れのものを使つ
てゐた。また機關銃などは我が方には
全く無かつた。敵の機關銃が戦場に初
めて現はれ、前進する我が散兵が忽ち
難倒された時には、流石の我がつばも
の達も喫驚した。何でやられるのかさ
つぱり見當がつかない。恐ろしいもの
があるわい、といふ氣持で遮二無二肉
彈突撃したのである。敵の陣地を占領
して、見たことのない新兵器を肉獲し
て、これが機關銃であるといふことを
初めて知つた有様であつた。

明治三十七、八年戰役の戦費は二十
億圓である。そのうち三十七年の募債額
は一億圓、三十八年の募債額は三億三
千万圓で、公債は全戦役を通じて十三億
圓であつた。當時、これだけの戦費を調達
し得ず、外債八億圓を以てこれを償つ
てゐたのである。

これをロシア側についてみると、戦
費總額二十三億五千万圓、三十七年の
公債は三億圓、三十八年の公債は同じ
く三億圓を募集、全戦役を通じて十二
億八千万圓ほど費つてゐる。ロシアは
大陸軍國ではあつたが、財力は必ずし
もこれに即應してゐなかつたといへる
が、我が國に比べてみたならば遙かに
優れてゐたといへよう。それは世界經
済市場における相場にも反映し、我が

精神そのものである。幾ひは、まつろ
はぬものを、まつろはずにある。即ち、
教へ導いてもどうしても聴き入れぬ
輩を打ち懲らし、これを服せしめられ
たのであつた。即ち武力が發動せられ
る前には、我が誠意を以て相手を説服
するの我が國の外交方策であり、戦
争指導となつてゐる。

かやうに戦争にいたる経緯といふも
のが、人事を盡して行はれてゐるから
には、一たび宣戰の大命が下れば、「大
君の邊にこそ死なぬ願ひはせじ」とい
ふ大和魂が存分に發揮せられるわけ
である。

日露兩國の國力

ロシアは當時、國勢最も盛んで正に
世界第一の大陸軍國であつた。その平
時總兵力二百万、戦時五百万を突破
し、東洋にあるもののみでも約二十万
程度のものを整備してゐた。これに對
國は連戰連勝しながらも、我が國の國
債は常にロシアのものより安値であつ
たことによつても明らかである。

これを今次議會に提出された昭和十
八年度の總算は正味約三百六十億
圓、一日約一億圓の戦費であることに
思ひ及ぶと、大東亞戰争が如何に雄大
な戦争であるかが察せられるであら
う。

このやうな我が戦力、國力の實狀は、
直ちに戦争の遂行に多大の影響を與
へてゐる。今その一例として遼陽會戰
を述べてみることにしよう。

我が滿洲軍は明治三十七年八月末か
ら九月にかけて、ロシアの大軍を遼陽附
近に包圍して、これを殲滅しようとの
企圖を以て、黒木大將の指揮する第二
軍は、遼陽の東方山地方から太子河
を渡つて、敵の左翼を包圍するやうに行
動、野津第四軍、奥第二軍は正面、す
なはち滿鐵沿線方面から遼陽の堅陣を

日露戦争の勝因

日露戦争は、當初、作戦當局に何も勝つ自信があつて始められたわけのものではない。當時の海相山本権兵衛は、明治三十七年二月四日の御前會議を語つて、それが森嚴にして激烈な會議であつたことを述べ、

「なかに伊藤公は、先づ寺内並びに自分に對し、陸海軍の軍備について質問し、果して勝算があるか如何かと質された。寺内にしても、自分にしても、それに對して確信ある答辯は残念ながら出来なかつた。

すると伊藤公は會議に向つて、財政上の準備には非常な苦心を重ねて正確な答辯を求められ、大蔵大臣の責任にまで及んだので、傍らにゐた松方公がそれを見兼ねて言葉添へなかつたら、或ひは會議録は辭表を出さなければならぬやうなこ

攻撃した。有名な軍神橋中佐の首山堡の戦闘はこの時のことであつた。

この作戦は順調に進捗してぐんぐん敵の左翼を包圍することが出来た。敵は遂に態勢不利と見て決戦を避け、我が包圍を脱して奉天方面に逃げ延びようと思つたのである。これを見てつた我が軍は、直ちに追撃に移つたが、惜しいことには、この時にはもう既に彈藥が缺乏し、逃げる敵を撃たうにも弾藥がない。齒ぎしりかんで口惜しがつたが仕方がない。遂にみす／＼長蛇を逃したのである。

その後、露軍は續々兵力を増強するのにも及ばず、我が兵力彈藥は共に補充が惡くなつた。それに旅順の攻めも思ふやうに進捗しない。國內の兵器工場は大騒ぎで夜を日について彈丸を造つた。造つた彈丸は大急ぎで戦線へ送られたが、これがため滿洲軍は、遼陽會戦後しばしの間、主力を遼陽附近に集結

して兵力、彈藥の到着するのを待つたやむなきに至つたのである。

この時、敵將クロボトキン大將は、日本軍のなほ戦備整はず陣地構築に汲汲たる實情を知つた。それに兵力が増強せられたので、この好機に乗じ過去の不名譽を回復せんがため、大攻勢に轉ずるに決し、十月四日、有名な宣言書を發表して、攻勢に出て來たのである。

かやうな四圍の情勢芳しからざる中であつた我が滿洲軍は、徒らに守勢に立つことなく、進んでこれを攻撃するに決し、十月十日、遼陽附近の陣地を出發して敵を連日連夜攻撃、遂にこれを沙河以北に壓迫したのである。しかし、爾後わが軍は兵力い／＼不足し、追撃意の如くならず、沙河の線に踏みとどまらざるを得なかつた。我が國力が戦線に追及し得なかつたことを明らかに示してゐる。

とになつてゐたかも知れない。

事實、松方公が傍らから口を出したので、伊藤公はやつと黙つてしまつたが、その時の伊藤公の眞剣さといふものは、全く想像に絶したものであつた。それは單に伊藤公と蔵相の二人ばかりでなく、列席した元老各大臣が、陛下の御前で火華を散らして激論した……各列席の激論が漸く鎮まると、伊藤公は、陛下に對し率り「只今御聴き遊ばされました通り、いづれも是と申しての確信はございませぬが、事實かくの如きに立ち至りました以上、陛下の御親裁を仰ぎ、博文以下一身を賭しても戦はなければならぬと存じます。でなくて、むさ／＼露國のために蹂躪されるのを待つわけには参りませぬ。」と申上げた。

これで萬事は決したのである。この當局の熱烈さを見よ、そして政府が、

確信なくしてなほ且つこれを行はうとするのは、露國の暴戻に對して、正義の剣を敢然として加へんとする大義に基づいたものであり、同時に澎湃として波打つ民意を反映したものであつた。

當時の民意は、對露同志會として結成されてゐたが、これに帝大の七博士の参加をみて、國民的運動の形式を完成した形であつた。これはすべての階層の國民を参加せしむるよき門戸となり得た。彼等は演說會に、決議文發表に、當局への面詰に聲目がなかつた。そして、つひに上奏文すら捧呈するにいたつたのである。かくして主戦論は全國を風靡するにいたつて、戦意はいやが上にも昂揚した。この戦意の昂揚こそ、戦役後における講和締結に際して、國民大會となり、燒打ちと方つて爆發したのである。

これは今から考へれば、當時國民が

國力を過信した結果生んだ悲劇であつたが、しかし、この戦意の昂揚あればこそ、日露戦争の大事業を完遂し得たのである。

これに對しロシア帝國は、東亞侵略の野望に驅られ、無名の師を起したため、國民一般の戦争に對する熱意を缺き、第一線において戦敗を喫したのみならず、國內の結束も十分でなかつたため、遂に反戦論が戦争指導を阻害することに成り、戦争完遂の餘力を十分に持ちながら敗戦に終つたのであつた。換言すれば、物的戦力は我れに優れてゐたにも拘はらず、戦意が乏しかつたので戦ひ敗れたのであつた。

大東亞戦争への教訓

今次大東亞戦争は、盟邦獨伊樞軸國と相提携して、世界の大國米英を相手とする世界戦史未曾有の大戦である。米英の戦意は、直接豊富な資源と強大な

生産力に對する自信に由來する。しかし、さらに一步突つこんでその根本に遡つてみれば、アングロサクソンは絶對に日本人に負けるはずがない——といふ傲慢不遜な自惚れに他ならないのである。

もつと露骨にいふならば、敵アメリカ人は、日本人なんか猿同然の劣等民族だと思ひ上つてゐるのである。日本軍如何に勇敢なりといへども、それは結局死にもの狂ひに牙をむいて向つてくる動物のそれに過ぎない。結局は優れたアングロサクソンが猿同然の劣等民族に勝つといふのである。日本民族に對するこの許し難い侮蔑こそ、彼等をして執拗な出撃を繰返させる戦意の實體であるのである。

條件を備へてゐる。即ち我れは八紘爲宇の國是に立脚し、既に大東亞の要域を勢力下に收め、戦略的に、經濟戰的に必勝不敗の基礎を確立し得た。たゞ日本生産戰において、數では今日たしかに敵米國はわれに優れるものがある。しかし、これ等は組織の改善技術、訓練の向上等により戦ひ得るものであつて、不可能なことではない。この數的劣勢は克服し得るものであつて、敵側のいふやうな戦争勝敗の大なる要因とはならない。

結局、問題は彼我の精神力、戦意の強弱に歸せられる。この點、ドイツは前大戦に收れた苦い經驗からして、今度の戦争に收けては死も同然だとの強い意識が國民の一人々々にまでよく徹底してゐるといはれ、英國もまた三百年世界制覇の夢が破れやうとしてゐることとて、國家民族の存亡の戦

ひであるとの意識は旺盛である。問題はアメリカである。吾人は祖先傳來の大和魂をこの秋に遺憾なく發揮し、以て横暴なる米英を屈伏せしめるまで戦ひ抜かなければならない。

撃ちてしまむ

昔、神武天皇が御東征の折、賊共のため御苦戰遊ばされた時、しばしば「撃ちてしまむ」とどこ／＼までも戦ひ抜く御決意を御示し遊ばされたのであつたが、この御精神こそは、いま我等一億國民が大東亞戦争に處する心そのものでなければならぬと思ふ。撃ちてしまむ、撃ちてしまむと雄たけびながら、敵米英をどこ／＼までも撃滅せんばやまざる總國民の燃ゆるが如き熱意こそは、大東亞戦争必勝の要訣であつて、今日、戦争に處する我等の心構へでなくてはならない。

撃ちてしまむ

大東亞戦争を戦ひ抜く一億の決意を示す言葉として「撃ちてしまむ」の合言葉が用ひられてゐますが、「撃ちてしまむ」とは結局「撃つてしまむ」すなはち滅滅しなげな意味です。

神武天皇御東征の御勲
八十里(八十餘里)御討伐の折に
入りに、人多に、來入り居
り、人多に、入り居りとも、みつみつ
し、久米の子が、頭椎い、石椎いも
ち、撃ちてしまむ、みつみつし、久
米の子等が、頭椎い、石椎いもち、今
撃ちてしまむし

と將兵の士氣を鼓舞遊ばされ、更に長鬮彦
御討伐の際には
みつみつし、久米の子等が、粟生には
轟々と響、其根が壑、其根芽つなきて
撃ちてしまむ
みつみつし、久米の子等が、根本に

植ゑし、口ひびく、吾は忘れじ
撃ちてしまむ
神風の、伊勢の海、大石に、はひも
とほろふ、細螺の、い道ひとほり
撃ちてしまむ

と、凶徒必滅の固き御決意をのべさせ給うてをります。

孔舎衛坂の會戦に、皇元五瀬命は御戦死
遊ばされ、紀伊の熊野では全軍奮氣に觸れ
て、誓願状態に陥るといふ悪戦苦闘の中に、
神武天皇は、なほ御くまでも「撃ちてしま
む」の攻撃精神を堅持せられたのであり
ます。かくして天皇の「撃ちてしまむ」の
御歌に唱和し奉る皇軍將兵の攻撃精神も
熾烈を極めたものと思はれます。

もとより神武天皇は、最初から兵力戦を
主體とされたのではなく、天照大神の御
稜威により、戦はずして言向け平和すこと
を以て本來の目的と遊ばされたのでありま

す。そこで戦前には先づ必ず歸順をお勧め
遊ばされ、頭として應ぜぬ場合に始めて「撃
ちてしまむ」の攻撃戦法が、その頑冥な
敵酋の上につたのであります。

このことは、神武の御創業以來、今度の
大東亞戦争まで一貫してゐる事柄であつ
て、日米交渉によつて帝國は百方、米國を
言向け平和すことに努力したのであります
が、どうしても東洋制覇の野望を棄てぬの
で、官職の大詔は強發されたのであります。

一たび皇師を動かした以上、たゞ敵
米英の撃滅あるのみであります。皇民すべ
からく灼熱の火となつて米英を倒すまで
戦つて／＼戦ひ抜くべきであります。

九軍神の眞珠灣潛入、ハワイ空襲、陸軍
部隊のマライ上陸に續く今日までの數々の
戦果は、悉く「撃ちてしまむ」の攻撃精神
の發露にはかなりません。

そして、「撃ちてしまむ」の精神は、單
に前線だけでなく銃後の生産戦に、總力
戦に、一億國民の悉くに、今こそ「撃ちてし
まむ」の烈々たる氣魄が顯露されるので
あります。



大東亞戦争各方面の戦況

陸軍省報道部

最近の世界戦局を大観すると、日獨伊は、開戦以来の巧妙な電撃作戦によつて必勝不敗の基礎態勢を確立し、歐洲及び東亞の要域を作戰根據地として、物博地大を誇る米英を對手として、堂々長期戦を戦ひ抜き得るに至つた。敵米英はこれを坐視することに耐えず、わが建設戦を妨害するともにも不利な態勢を挽回せんものとあせり出し、これが東西の反撃作戦となつたのである。

即ち東亞においては、北の方アリューシャン、南はビルマ、ソロモン方面の反撃作戦、歐洲戦争における北阿方面の反撃作戦、西阿方面の上陸作戦等が

戦況の概要

これである。しかし、これ等はすべてわが方の勇戦奮闘によつて、一つとしてまだその目的を達したものはない。以下、各方面の戦況を略述しよう。

アリューシャン方面

昨年六月わが一部隊がアリューシャン群島の西端にあるアツツ、キスカの兩島を占領して以來、敵は専ら飛行機による爆撃、および潜水艦によりわが本土との補給線を脅かすことに努めてゐたが、冬期天候不良のため漸次平靜に歸してゐた。しかるに敵は一月以來、漸次積極的になつて來た。

また昨年三月頃から着手されたアラスカ公路は十一月末概ね完成したもののやうである。全長約二千八百キロ、米軍當局がこの方面への積極的な企圖遂行の現はれとして注目すべきであらう。敵ばかりでなく、寒さと強風と濃霧とも戦ひつゝ、北邊を護るわが將兵の辛勞は察するに餘りある。

ベーリング海峡を横断して行ふ米ソの定期航空路も、既に實現の域にまで進んでゐるものと考へられ、將來米國のソ聯または重慶援助には、西阿方面への空輸よりも、寧ろ、この方面を利用するのではないかと考へられ、今後、北方は遂次その重要性を増すもの

とみられる。

滿ソ國境方面

滿ソ國境方面は、その後、大なる變化はない。依然として狙撃師團二十數ヶ師、飛行機、戦車各、二千臺以上のものが駐屯し、戦備おさ／＼／＼意りない情況である。ソ聯邦側では獨ソ戦局が切迫せる折柄、嚴に日ソ紛争の惹起を恐れ、こゝ暫くは却つて平穩になつてゐるといへる。關東軍は待つあるを待む萬全の態勢を整へてゐる。

支那大陸戦線

重慶その後の情勢も餘り大した變化はないものといへる。依然として三百ヶ師三百萬の兵力を有し、戦力の保持増強、經濟の自給自足、米英ソとの連絡強化に努力してゐる。經濟方面は海外との連絡が遮断され、日に／＼窮乏しつゝあることは、その物價の暴騰によ

つても明らかである。

即ち昨年末、約五十倍の物價暴騰であつたものが、今では百倍にまで達してゐる。重慶當局の一番の悩みは、この經濟苦況を如何にして打開するかにある。昨年新たに着手された西北方面の開発工作は、その後順調に進展し、概ね所期の目的を達してゐる模様である。

現在の援將狀況をみると、米國がインドを経て行ふ航空機輸送力は明らかではないが、大體月數百トン程度のものではないかと思はれ、西北ルートによる交易も若干ある模様である。支那大陸今後の情勢において着意すべきは、米空軍力の増強である。現在、重慶空軍は約百五十機程度であらう。別に少將チェンノルドが指揮する米空軍部隊は、重慶奥地を根據地として戦備を固めつゝある。昨年の夏、我が支那派遣軍の作戦によつて破壊せられた

玉山、その他の飛行場を復舊整備中である。我が支那派遣軍飛行隊は、しばしばこれに攻撃を加へ、敵の企圖破潰に努めてゐる。

支那派遣軍は去る二月十三日から、重慶軍撃滅を期して春季進攻作戦を開始した。なかにも中支那方面では、十三日から魯蘇戦區第八十九軍主力に對し、江西、湖北、湖南方面では十五日から第六戦區の敵に對して開始された作戦が大いものである。

魯蘇戦區の作戦は、國民政府の和平地區内に殘存して命脈を保ち、わが後方攪亂に蠢動しようとしてゐた敵の出鼻を制した撃滅戦で、これには航空部隊も協力し、逐次包圍圈を壓縮して、徹底的掃蕩を實施中である。國民政府軍の有力新鋭部隊も勇躍これに参加してゐる。

次に南昌及び沙市方面の奇襲進撃に引續き、沙市東南方の揚子江河畔に

展開された第六戦區隊身車及び第百十八師の戦線は、作戦開始以來、天候悪く雨雲のため、戦場一帯の濕地は全く泥濘と化し、地上進撃部隊の辛酸勞苦は筆舌に盡し難いものがあつたが、地上部隊將兵はかゝる自然の悪條件をものともせず進撃に努め、二月十七日、十八日の兩日にわたり、沙市南方の揚子江畔において第六戦區の敵四ヶ師を完全に包圍しこれを潰滅した。

廣州灣租借地への進駐

二月二十一日、我が一部隊は佛國政府と諒解の下に廣州灣佛國租借地に進駐した。即ち南支軍の新鋭部隊は、帝國海軍部隊ならびに飛行部隊と密接なる協力の下に、去る二月十六日未明、雷州半島東海岸に奇襲上陸を敢行し、同日十時三十分、要衝、雷州縣城を攻略し、次いで廣州灣周邊地區に蟻踏進動せる重慶軍に果敢なる攻撃を加へ、

十九日十七時その據點遂溪を完全に占領し、引續き廣州灣佛國租借地當局と極めて友好裡に現地協定を遂げた上、二月二十一日十四時、陸海共同して同地に進駐した。

廣州灣租借地に對しては、これまで帝國軍隊は派遣されてゐなかつたが、最近、同地に對する米空軍ならびに重慶軍の策謀企圖が露骨となつたので、帝國陸海軍は右企圖を未然に防止するため、佛領印度支那共同防衛に關する日佛印間の協定に基づき、フランス側の完全な諒解の下に敵の機先を制して同地に進駐を行つたものである。

雷州半島の雷州縣城東側に奇襲上陸した我が精銳部隊は、一キロ半に及ぶ陸を没する淺瀬を渡渉、同日十時三十分、雷州縣城を抜き、敵を撃壊しつゝ二月十一日十四時、廣州灣租借地に進駐を完了し、さらにその附近を確保した。同地においてわが進駐部隊は佛印軍

と協力、防衛に當つてゐる。この進駐は過般英國が行つたマダガスカル島の占領とは全く趣きを異にし、日佛兩國間の完全な諒解の下に行はれたのである。

ビルマ方面

ビルマは國防上、南方地域の外壁をなしてゐる。敵側ではビルマ奪回を盛んに宣傳し、英軍は昨年未頃から東部國境方面に七、八ヶ師團の兵力を集中し、ビルマ侵入の機會を覘ひ、その一部の約一ヶ師團は、我がアキヤブ占領部隊の前面に進出、攻勢に出て來たが、我れに撃退せられた。敵機は頻りにビルマ内に飛來し、ラングーン始め各地を盲爆してゐる。もちろん我が飛行隊も昨年以來、インド及び雲南に進撃、果敢なる爆撃を加へてゐる。

即ちビルマ方面のわが航空部隊は、ビルマ奪還を呼號し、執拗に反攻を企圖する敵米英、重慶航空部隊に、機先を

制して大擧出撃、十二月中に空中戦闘

または地上兵器により撃破百二十八機(うち不確實のもの十機)、鹵獲二機、

軍事施設の爆破炎上約五十ヶ所、撃沈敵敵船二十六隻の大戦果を擧げた。

即ちわが陸軍機は十二月五日および十日の兩日、インド東部緬甸國境を突破、敵航空基地チッタゴン並びに同埠頭を急襲したのを始め、連日連日フェ

ンニイ、シルチャ、バクルプール等の各飛行場を空襲、さらに東部インドの心臓部たるカルカッタをも急襲した。

なほ、同二十一日以降、後方擾亂の目的をもつて來襲した米英新鋭機を、アキヤブ、マグウェ兩飛行場において

捕獲、大打撃を與へたほか、二十五、六日には緬支國境を越えて長驅雲南

際飛行場を強襲、敵機多數を撃破した。

十二月中に我が方が敵に與へた損害は左の如くである。

十二月中に我が方が敵に與へた損害は左の如くである。

一、東部インド方面

撃破 三十四機(うち不確實八機)

撃破 二十五機

計 五十九機

二、雲南方面

撃破 五機(うち不確實二機)

撃破 十三機

計 十八機

三、ビルマ方面

撃破 二十機(中國によるもの)

計 三十一機(地上兵器によるもの)

計 五十一機、鹵獲二機

總計 百二十八機(うち不確實十機、飛行機)

四、敵軍事施設爆破

炎上 約五十ヶ所

五、撃沈敵敵船

二十六隻

我が方の損害

自爆 二機

未歸還 十機

以上の如きわが陸空軍部隊の大戦果にも拘はらず、敵はなほビルマ奪還の反攻企圖を捨てず、緬甸國境に兵力を増強中、現在インドにある敵軍はイン

下兵を合せ約百万、飛行機六百機といはれる。かくの如き大軍をインドに駐屯せしめてゐるのは、單にインドの治安維持といふ以外に、如何に眞剣にビルマ奪還を企圖してゐるかを示すものにはかならない。またビルマ東北方の緬支國境には、敵は怒江對岸の線に十數ヶ師の重慶軍を配置してゐる。さらに米英空軍は東部インド、雲南方面を基地としてビルマへ來襲、十二月中の敵襲は百數十回の多數に及んでゐる。

西南太平洋方面

北部ソロモン群島、ニューギニア島の要線に展開を終つた我が軍は、戰略的據點の編成建設を終り、攻防いづれの新作戦にも應じ得られる態勢にある。

これを要するに、春の到來と共に各方面とも戦況は活潑となることであらう。

頼母い 戦争生活例

情報局と放送協
が共同で募集した
「頼母い戦争生活
例」の當選發表です。
題は「隣組の精神
結を強める方法」で
した。

和樂常會

名古屋市東區東門町一四
湯淺貞浩

毎月ひらかれる常會が、回を
電わる毎に形式的に流れ、次第
に熱を失つてゆく傾向をみて、
私は組長として大いに考へさせ
られた。

常會は、隣組の唯一の親睦機
關であり、意志の疎通機關であ
る。議題があらうとなからう
と、月に一回はお互ひに元氣な
顔を見せ合ひ、温かい心を通は
せ合つてこそ、いざといふ時に
一心一體の完全な隣組活動がで
きるのである。
さういふ大きな使命をもつ職

時下の常會が、事務的になり、
おざなりになつては、非常の際
隣組に完全な防空活動を望むこ
とはむづかしい話である。
そこで、私共の隣組では去年
の十月から、常會の二部制を採
用して、實施してゐる。つまり
第一部常會では、これまでのや
うに一軒一名が出席し、その日
の議題について話し合ひ、これ
がすむと第二部常會をひらくの
である。

人も子供も、月一回の常會をひ
たすら待ちかねるやうになつ
た。
健全娛樂の叫ばれる今日、家
庭で、隣組の全員で樂しめるこ
の常會は、隣組演藝會ともいつ
てよく、常會がすんだ後も、折あ
る毎に當日の餘興が話題にのほ
り、明るい笑ひが隣組にゆきわ
たり、みんなの氣持が一つに融
け合ひ、強い團結の氣分が流れ
るやうになつた。

配給で團結

高崎市松島町八丁目
木下武夫

小賣商、官吏、醫師、製菓
業、會社員等の雑多な業種を含
む十一月から成る私の隣組は、
まだごく不定住して間もない家
庭が多く、團結には困難な條件
の多い隣組であり、また實際

結成前は近隣の誰の片鱗も
なかつたといつてよい程であつ
た。

それが今日、その團結に見る
べきものが、ゆるやうになつたの
は、給表を作つて注文配給を
行つたことである。

注文配給といふのは、例へば
十一戸へ對し五百匁の鶏卵が配
給されるとすると、配給係は先
づ各戸に告げて要、不要を訊い
て廻る。そしてせひ必要な家へ
薄山配給するのである。必ず誰
つて遠慮して呉れる家が二、三
戸はあつて、少い配給品を割合
豊富に感じつゝ、領ち合つて來
た。

配給の實際は、一つの表に記
入して常會の席上で細覽した。
そして配給係は、配給につい
て今日もまた譲り合つて呉い
て、とお禮と共に配給の詳細を
報告するのである。配給といふ

切實な實踐を通して譲り合ひ、
感謝し合ふことが、私ども隣組
の團結に確かに血を通はせたと
私は信じてゐる。この頃では、
配給を遠慮する度に、その配給
品の金額だけ八ノ日貯金に入れ
ることにしてゐる。

なほ、私共の隣組では、鍛錬
旅行や、廻り難誌を作つたり、
共同内職や、共同農園、不要品
交換會などやつてゐるが、こ
れらも皆、精神的團結を強める
實踐になつてゐる。特に防空訓
練は徹底的に行はれて、團結を
強め、効果があつた。

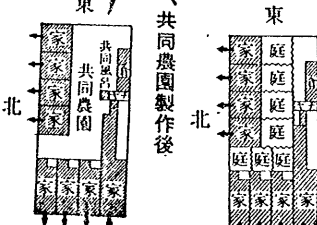
また本年度から一定の家計費
月々決算表が出来て、毎月見せ
合つて檢討を加へることを婦
人常會で申合せたが、これも
各家の親睦を増し、一層團結
を強固にするのに役立つであ
る。

境界を撤廢

東區大野町清水中區
鈴木明太

私達の隣組は東西四十五間
(北面家屋四戸、南北二十間)
東西四戸、間のやうに配置さ
れ、一戸を除き他は同一地主で、
一、従前の隣保班區域

二、共同農園製作後



應勤務の方なので、とかく打ち
解けてお話しする機会も少く、お
世話いたす者としても少からず
苦心してまゐりました。
一昨年の六月のことでした。
健康増進運動に關して隣組常會
が開かれました。私が提案し
ました朝間體操が可決され、そ
の翌日から私の家の前の廣場で、
私が指導者となつて午前六時か
らラジオに合わせて勇ましく始
めました。
昨春、ヒマの栽培が隣組で打
合せられると共に、今までの隣
組の間の板塀を撤廢し、共同農
園を作る話が出、地主の許可を
得て庭園をこはして三百坪の耕
地を作りました。
まづ周圍にヒマを植付け、中
央部には甘藷と蔬菜を栽培、そ
の收穫は第一年目のため僅か
ではありましたが、家に残る農
機運の除草手入れに流す汗、日

曜日に耕耘に注がれる。主人の汗は、集まつて農園を潤はし、親子にもまざる親しさ。收穫を終へての十一月賞會には、薪木の配給制度に先だつて共同風呂の話が出て、これは今春雪融けを待つて實施の運びになつてをり、輪番で當番に當るやう計畫を進めてゐます。

共同作業と共同購入

東京都台東区下谷久野町字平野野田上四組 安達一夫

私どもの隣組は、丹波の西端に位し、九隊から成る一小隣組である。大東亞戦争を勝ち抜くために、と申合せて始めたのが、以下に述べる事業を通しての精神涵養である。

供出大蔵の栽培 昭和十六年二月の或る夜、組員一同宅に集り、供出大蔵の栽培につき協議

し、近所の荒地を借りることにした。三月の雪融けを待つて總員が出動、開墾にかゝり、整地、播種、中耕、除草、施肥等をすべて共同の力でした。八月の刈取りを終へると、乾燥大蔵八貫代四十圓を、また後作として大根を栽培して二百貫代五十圓を得、これを全部、隣組臨時貯金とした。そして雨天の日を利用して宅に集り、一同がこの喜びを語り合ひ、明年の計畫を立てながら會食した。

十七年には大蔵四貫、大根五十貫の増收を得、とくに大蔵は昨年より一級品に合格し、代金は昨年同様貯蓄した。この共同耕作は隣組の親密を強化し、職域奉公の精神が培はれ、誠意に富んだ親類より近い隣りの意識を深く體驗した。火鉢の共同使用、火鉢を供出して少し不自由を感じたので、

各月へ二個づつ代用火鉢を購入し、配布員に氏名を記し、組内に客事がある場合は、これを持寄り使用して、家具の死蔵といふ時代の舊弊を解消した。

出征軍人の慰問 組出身の勇士へ四季毎に隣組全家庭からの慰問文と、共同作業や當會等の模様を撮した寫眞を送送してゐるが、勇士から大變喜ばれてゐる。國旗掲揚と除靈作業 國家の祝日、祭日は勿論、村で定められた掲揚日には、子供會を動員して必ず掲揚してゐる。また降雪時には、朝まだき組長の合圖に總動員で除雪し、通行の便を圖つてゐる。

以上、共同作業を通して隣組の團結、精神涵養、能率増進、戰時生活の徹底を圖つてゐる。特に全家庭が漏れなく第一線へ勇士を送つてゐるので、我等の軍國隣組と呼稱して大いに氣勢を上げ、このよまない一同喜んでゐる。

神佛中心に

東京都台東区 中妻聖八

十戸四十人、主に勤人で、皆似よつた生活程度の方々です。今こそ隣組は配給のことで一ぱいですが、最初は隣組といふものは、事無くて睦み合ひ、事あつて助け合ふ精神的だけの團結と思つたので、その氣持で出發しました。陰日向なく睦み合ひませう、といふのが第一回當會の中合せでした。それ以來この四十人は、一族の氣持で睦み合つてをります。七十歳の最年長翁を顧問とし、組のことは何でも伺つて指圖に従ふことは、丁度家庭でご隠居に伺ひを立てると同様です。當會は先着順の着席ではな

く、組長と長老を中心に年齢順にすること、また、月々の當會は順廻りにしてゐます。

まづ國民儀禮の後、一同で當番宅の神佛佛壇を禮拜し、出征家庭ならは除靈を供へて黙禱します。これは、このお宅の神佛はやはり組の氏神であり、先祖も同じといふ氣持を表はすためです。勿論、當番のお宅でも、お盆、感謝し、神佛や佛壇のお供物やお掃除も念が入り、不言の中に敬神崇祖の奨めにもなつてをります。

當會には決して飲食物を出さぬやうにたゞ組長から申しましたが、どうせ揃ふ食事なので簡単な贅食を共にすることにしました。語り、食ひ、笑ふ、本當の團樂、本當の精神的融和は、食事を共にしてこそ眞の味が出るやうです。組にはむづかしい規約も嚴格

な當番制もありません。一昨年の頃、組長が數回夜巡りをしたところ、それに倣つて風の夜などは、必ず誰か自發的に出動します。當番で出されては一寸厭に感じても、自發的にやつたと思ふと氣持がよいと、お互ひにご苦勞さま、ご苦勞さまと感謝し合つてをります。

組内四人の出征軍人の名札を各戸の神棚に納め、毎朝武運長久を祈り、毎月八日の慰問文も組で同封で送ります。また團中病難等は、お互ひに心と手で慰問の手助けをし合ひ、道具の貸合ひ、得手、得手によつての作業の手傳ひ合ひをしてをり、お互ひの感謝で配給上の問題などは起りません。

遙拜當會で團結

東京都台東区 第一町内 四四組長 佐々木 健

住宅街で、隣組が整備する以前は、三軒先は誰があるやら知らないといつた状態です。どうも始めのうちはしつくり行かなかつたが、一昨年九月末に防空訓練が行はれた時、隣組の精神團結こそ必要だと感じた。それには隣組の嚆矢、遙拜當會を行ふことだと、決意した。午前五時四十分、起床の合圖の小鼓の第一打、ついで六時第一打で組員は一同組長宅前に集合する。宮城遙拜會、皇大神宮遙拜、三手一、陸士神社遙拜(夏と拍手一、祈念)の遙拜日には當が代給也。それから今日まで、この嚆矢東方遙拜は續行され、始めの一世界一がいつしか一世帯數名づゝになり、國祝祭日には全家族總出動、今では小鼓と拍手の響は近隣での名物になつて

ある。その結果、豫期通り防空防火を強化し、貯蓄、配給に不平等も叱言もなく、ほんたうの仲よし隣組となり、市から團當の債券も消化して、さらに他から購入してゐる程である。

次ぎの募集課題

- 一、隣組の婦人が共同で内職をしたり、その他勤勞をしてゐる實例
 - 二、弱い子を丈夫にした體操
- 原稿 四百字 二枚
印刷 三月六日(土)
宛名 東京市台東区内幸町日本武蔵協會 東京市台東区内幸町日本武蔵協會 臨時在酒樓樓上
印刷 三月二十四日(日)及び三十一日(土) 社務三月二十日(土) 二十七日
注意 原稿には、住所氏名より姓名をつけて、筆名、年齢もはつきり書き入れて下さい。印刷用の方は添削を致します。なほ原稿原稿は一切お返ししません。

通風措

増現と二億
 一心
 今次の増現は、大車車競争を勝ち抜くために、われら一億欣然として負擔することは申すまでもない。しかし大蔵大臣のいふ「奢侈品、遊に對しては禁止的な課税を以てする」だけでは十分でないと思ふ。なる程、禁止的な課税によつて一部の消費を抑制することは出来るであらうが、より持てる者は、これまでの競争者と競争せず、奢侈品を獨占し、遊興をほし、まゝにすることが出来る。これは決戦下、一億一心が強く要請される今日、まことに面白くないことである。

奢侈品が、高級遊興機關があるが故に、これを享

行しようとする者が現はれるのである。決戦下にあつて益なき奢侈品の製造禁止と、高級遊興機關の網減を當局に切望する。

(三河)

無醫村をなくせよ
 現在、人的資源の増強がさげられてゐる時、まだ醫者のない村のあるのは、甚だ遺憾とするところである。私の村は、東北の一農村であるが、毎年十一月半ばから降雪期に入り、丈餘の積雪に見舞はれ、翌年四月末か五月に入つて漸く融雪する交通の不便な村である。村に一人の醫者があるが、七十餘歳の老齢のため、冬期間は部落の中も往診が困難である。また隣村には醫者がゐないために、冬期間などは重病人ができても醫者の診療を受けることが出来ない有様である。醫者を、全國各町村に駐

在することを法制化して、全國に無醫村を絶つことを希望してやまない。
 (山形の一農)

不具者に職を
 今や大東亞戦争は決戦期に入り、國民皆勞が叫ばれてゐる秋、優秀なる義手、發足を肉體同様に動かし、一人前の五體を持つ人達に少しも劣らぬ能率を擧げる自信と、實力を持ちながら、不具者として社會から見捨てられてゐる人達は、この世に數方とあることであらう。

我等は頭腦の不具者にあらず。たゞ單に片手、片足、片眼がないばかりに、自分の習む職にも就かれず、皆勞報國の精神を胸に湧きらせながら、閑々の日を送つてゐるのである。

我等に職を與へよ、同業の人々に代つて敢へて一文を致す。
 (二重四色)

必勝貯蓄と生活費の保障に郵便年金をおす、めします

郵便年金は
 豫め郵便局へ掛金を拂込んでおくと、毎年恩給のやうにきまつたお金がかかります。

週報	昭和十八年三月三日発行
編輯者	東京市神田區永田町一丁目一番地
印刷所	東京市神田區大手町
定 價	一部 五錢(送料一錢)
御 注 意	▲本誌より轉賣の場合は必ず「週報第一號」の旨を明記し、その轉賣誌を信局局西郵便局宛三冊郵送して下さい ▲本誌記事の無断転載は御断り致します ▲掲載記事に對する御希望や編輯に關しての御意見も四角封筒でお知らせ下さい ▲本誌を他へお送りの場合は郵便第一號

編輯局報情

週報

號日十月三

新制中等學校問答
 戦力増強と青年學校
 新増税一覽
 出版界の新發足
 農業保險制度の改正

334號

昭和十一年十月一日第一種郵便物認可
昭和十八年三月十日發行
(毎週一回水曜日發行)

五錢

週

報

昭和十一年十月一日第一種郵便物認可
昭和十八年三月十日發行
(毎週一回水曜日發行)

内閣印刷局印刷發行

週報は民翼賛の道しるべ

籤を楽しみながら貯金が出来る

手切丸弾

一枚二円 一等千円

第十回

賣出 三月一日→十五日

抽籤 三月二十日

第九回弾丸切手當籤番號

一等 (千圓)	20824	三 等 (五百圓)	090	311	579	846
四 本	25304	四 等 (二百圓)	119	319	580	850
30631	25912	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	122	323	606	859
46949	35597	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	131	332	627	867
60388	36227	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	137	334	667	868
61374	46949	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	150	335	671	877
二 等 (百圓)	45359	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	157	349	699	887
二十本	46531	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	204	373	719	908
50751	50751	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	208	379	723	915
51946	57420	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	223	382	733	925
57420	60078	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	230	445	735	930
4582	415	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	231	451	746	946
5877	60399	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	244	460	753	959
7184	80019	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	261	469	770	980
9591	502	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	275	483	779	990
14945	82709	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	287	498	817	993
	678	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	289	503	826	994
	86723	切手番號ノ下ノ数字が下記番號ト同一ノモノ	310	529	833	997

抽籤のすんだ切手は五枚以上まとめて郵便局へお差出しの上、特別据置貯金證書と引換へて下さい。

(本書の大きさは國定規格[A6]判)